

スギノアカネトラカミキリ

スギ、ヒバ、ヒノキの生立木の幹材内に変色や腐れを引き起こす。被害木は枯れ枝の付け根がコブ状になり、ヤニがでてるといわれる場合もあるが、外観から被害木を判断するのは一般に困難とされる。

スギ造林地の一部地域で発生が観察されている。

【学名】 *Anaglyptus subfasciatus*

【分類】 コウチュウ目 (Coleoptera) , カミキリムシ科 (Cerambycidae)

【分布】 北海道, 本州, 四国, 九州.

【特徴】

枯れ枝を根元で切ると、その断面に粉の詰まった楕円形の穴（長径3～4mm）がある。

【生態】

卵から成虫まで早くて2年、寒冷地では推定4～5年かかるといわれる。成虫は春に出現する。サンショウ、ガマズミ、ミズキなどの花に集まり、蜜や花粉を食べる。卵は枯れ枝の粗皮の下などに産み付けられる。幼虫は枯れ枝を通過して幹材内に侵入し、上下方向に5～10cmほど穿孔する。その後、再び枯れ枝に戻り蛹になり越冬する。

【被害と防除】

幼虫の被害部位の周囲が変色、腐朽する。ヒバやヒノキはスギほど変色や腐朽の程度は大きくないといわれている。

寒冷地のスギでは被害は早くて20年生くらいから発生する。木が大きくなると枝も太くなり、生枝上の枯れ枝に産卵が多くなるため、幹への被害は少なくなるといわれている。

被害は局所的である。被害が確認されている林分と同じ流域地域では枝打ちによる被害予防が重要である。20年生から枝打ちを行い、枯れ枝が発生しないようにする。

【文献】

1994. 榎原寛. スギノアカネトラカミキリ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集. 森林昆虫, 総論・各論: 188-192. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

スギノアカネトラカミキリ kamikiri/suginoa/
kaisetv.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/10/24.

